

研究課題名：火災原因調査の能力向上に資する研究 (平成 28 年 4 月～平成 33 年 3 月)	評価の集計結果（人）			合計点	総合評価 (平均点)
	A	B	C	5	A (0.71)
	5	2	0		

評価	委員コメント	コメントに対する回答
1	A 消防現場における火災原因調査の方法を標準化しマニュアルを作成することは、火災原因調査の質の向上に寄与すると考える。	火災原因調査の質の向上に資する資料を作成してまいりたいと思います。
2	A 火災原因を特定することによる社会的利益は計り知れないと考えられる。それによる製品、機器等の安全性向上は望ましいことではあるが、余りに安全性が行き届きすぎるのも私たちの注意力、危惧力が散漫になってしまう恐れもあるのではと思います。 これらの基礎研究を、関係部署にのみ止めるのではなく、一般人に普通に注意力を発揮させるための広報活動も研究の進展と共に必要なのではないかと想います。	製品、機器等の安全性については、現状でもメーカーが努力している部分だと思いますが、それでも、製品、機器等の火災は減少しておりません。新しい技術や構造、素材が導入されることや、不適切な使用方法により、新たな危険性が生まれており、この危険性をひとつでもつぶしていくのが火災原因調査に期待されている部分ではないかと考えます。  研究成果は、最大限広報してまいりたいと思います。
3	A 火災調査研究を消防研が中心的に進め存在感をアピールすることは不可欠であり、科学的に的確な原因調査を推進することは、調査研究の意義をさらに高めるためにも重要である。	火災原因調査の質の向上に資する資料を作成してまいりたいと思います。
4	B 火災現場の状況を把握する技術に関する研究については、火災現場に残された状況から何が起こったかを断定困難な場合の経過推定手法の開拓ということだろうが、研究の進め方が漠然としているのではないか。火災現場では、出火階より下階に煙が拡がっているなど素朴には理解し難い事態や、煙流動の方向が煤の痕跡と避難者の目撃情報が異なることは少なくない。何か、具体的な事例を手がかりにしないと、研究しなくても言えてしまいそうな結論	本研究は①から⑤の課題毎に独立しており、それぞれの計画に沿って研究を進めることとしております。ご指摘を踏まえ、全体の進め方にも留意しながら研究してまいります。  実火災の現場の状況、証言、データ等を利用して研究を進めてまいります。こ

	評価	委員コメント	コメントに対する回答
		<p>になってしまいそうである。爆発については、爆発が実際に起こったかどうかを判断できるようにするという事なら、爆発で何が起こるかだけでなく、爆発の痕跡のように見える破壊を起こし得る要因として他にどんなものがあるか、という検討も必要ではないか。</p>	<p>この点ができるように研究計画書を修正いたします。</p>
5	B	<p>火災調査に関する豊富な経験を有する研究者/技術者の大量退職時期が迫っていることから、5年後の成果ではなく、緊急に進める必要がある。一方、人材の代わりに機器購入ということだけでは研究にはなり得ないので、研究プロジェクトとしてみた場合に、どの点に新規性、独創性があるのか、理解できない。</p> <p>自治体消防との役割分担、連携の仕方はどうなっているのか、すなわち、本研究課題を消防研究センターで実施することの意義が不明である。</p>	<p>成果の出たものから順次発表していきます。</p> <p>消防本部での火災原因調査においては、分析方法や現場の見方で経験値的に対処していたことが多く、分析方法のノウハウや現場の観察の仕方において科学的データを基にした方法をまとめたものはありませんでした。一方、消防研究センターには過去の火災原因調査における火災事例や分析事例が蓄積されており、多くの手法をまとめることができます。そのため、消防研究センターは、分析のノウハウや現場の現象の見方について、火災原因調査を行う上で活用できる、新たなマニュアルを作成することができると考えます。この点ができるよう、研究計画書を修正いたします。</p> <p>共同研究や研究協力を視野に入れて研究を進めてまいりたいと思います。火災原因調査に関する課題は全国の消防本部に関係する課題であり、本部毎に問題解決に当たるよりも、国の機関である消防研究センターが全国消防本部と連携して全国の火災事案を素材としながら問題解決を行うことで、効率的で、効果の高い研究が行え、全国の本部へ成果の還元が行いやすいと考えます。</p>
6	A	<p>1) 必要性 従来からマニュアル化されていなかったことが問題。(特に①～③) 火災予防の観点で意義大と判断。</p> <p>2) 効率性 妥当と判断</p>	<p>火災原因調査の質の向上に資する資料を作成してまいりたいと思います。</p> <p>共同研究については、研究過程で出てきた課題を検討しながら考えたいと思います。</p>

	評価	委員コメント	コメントに対する回答
		3) 有効性 防災面で有効 4) その他 ②については電器メーカーとの共同研究を検討しては（メーカーのデータを利用してよいのでは）	
7	A	火災原因調査は、本来は専門機関である消防が主導権を持つのが当然なのに、火災によって死傷者が出たりすると、犯罪捜査を優先する警察が主導権を握り、火災直後の初動の段階から、消防機関を現場から締め出す光景を何度も目にして来た。警察の捜査は、まず「犯人を挙げる」ことが一義的に考えられ、肝心の火災予防対策や火災の拡大防止対策への視点が失われがちである。当研究によって「火災原因調査は消防機関がプロであり、繰り返される惨事の防止に役立つ」ことを強く印象付けて欲しい。	火災原因調査の質の向上に資する資料を作成するとともに、成果の広報もしてまいりたいと思います。